

〈指導教員推薦文〉

社会学部 教授 稲 増 一 憲

本出莉乃 「平成ギャルの持つマインドが現代女性たちに及ぼす影響の検討
— 昭和レトロおよび平成レトロ流行の背景の検討とともに —」

推薦理由

本研究は、1990年代以降に生まれたいわゆる Z 世代において広がる平成レトロブームの心理的背景について、学際的な文献レビューと多様な研究手法の組み合わせによって、丹念に分析を行ったものである。

本研究が先行研究として、主に英語圏で行われきた心理学のノスタルジー研究と日本における昭和レトロブームや平成ギャルブームについての社会的・歴史的研究の両方を採用していることにより、平成レトロブームにおけるノスタルジーという普遍的な構造からの逸脱範囲と、日本独自の文脈を描き出すことに成功している。

また、研究1においては国会図書館に通い、所蔵されている1990年代のファッション雑誌の内容分析を行う、研究2では研究1を元に作成したギャルマインド尺度の信頼性と妥当性の検証を行う、という綿密な手続きを経ていることによって、本研究の中心となる研究3の分析に説得力を持たせている。これらは筆者が、ゼミや社会心理学専攻分野の授業に留まらず、社会学部での4年間の学習を通じて身に着けてきた知識やスキルを総動員したものであり、結果として完成した論文は、まさに「社会学部優秀論文」として推薦するにふさわしいものとなった。

そして、平成レトロブームに対する世代間の捉え方の違いや、女性の自由や自立を後押しするものである一方でキャリアにおいては伝統的な女性の価値観と親和的なギャルマインドの2面性を浮き彫りにしたこと、昭和30年代の経験そのものではなく昭和レトロブームの存在自体がノスタルジアの対象となるという二重構造の存在を明らかにしたことなど、本研究の知見は他に類を見ないものであり、学位論文の枠を超えて、レトロブームやノスタルジアの研究において、今後先行研究として引用されるに値する価値すら持つといえよう。